

akane.

あかね

vol.42
2019 Winter

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

Close up **阿品土谷病院**
心穏やかで快適な毎日を過ごすための医療療養型病院

Topics **阿品土谷病院 透析センター・看護部・薬局・地域医療連携室**



いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会

はじめに

理事長あつひ

2019年も早いもので、あとひと月を残すところとなりました。平成が終わり、令和を迎え、天皇即位礼の様々な諸行事の報道を見るたびに、日本の天皇制の歴史の深さを教えられた年でした。新天皇が即位され、新しい元号が令和となりましたが、平成に引き続き自然災害が多い年でした。災害で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると同時に、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

医療法人あかね会では、今年6月の理事長交代により、あかね会全体の統一を図ることに力を入れています。医療ニーズの急激な変化に伴い、あかね会は阿品土谷病院、介護老人保健施設シュスタ、中島土谷クリニック、大町土谷クリニック、在宅部門と平成の時代に事業を拡大してきました。しかし、拡大していく中で相互の結びつきが弱い点、施設や部門で考え方の統一が出来ていない面が目立つようになってきました。そこで、急性期から在宅まで幅広く地域の皆様のお役に立つためには、あかね会全体の関係強化が必要と考え、本年度は相互間の情報共有やサポート体制に力を入れております。

あかね会の理念「今求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう」を遂行していくために、2020年も職員一同、力を合わせて努力して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



Close up
阿品土谷病院

阿品土谷病院 院長 今津 通教

心穏やかに快適な毎日を過ごすための医療療養型病院

阿品土谷病院は、眼下に青く広がる瀬戸内海を臨む、長期療養型の病院として1987年開設されました。219床が入院可能な中規模病院で、透析患者、心疾患などの内科の患者さんの治療を行っています。約170名の透析患者さんの治療が行われている透析センターやリハビリセンターも併設されています。ご高齢でさまざまな合併症をもち、日々の生活を送る上での日常的な動作が難しいADL（日常生活動作）の低下した患者さん、認知機能の低下した患者さんが多く入院されています。

また在宅や施設での療養を目指しリハビリに励んでおられる患者さんとともに、それまでさまざまな治療を経たこられた退院困難な終末期の患者さんも療養されています。寝たきりで、褥瘡などの重い皮膚疾患を合併した患者さんも多く、定期的に皮膚科の医師が診療を行うなど、長期療養となる患者さんへのさまざまなケアも行っています。

当院が何よりも大切にしているのは、患者さん自身がQOL（生活の質）を保ちながら満足できる治療および介護を受けられることです。それぞれの患者さんが、その人にあった治療を受けることができているか、治療により充実した日々を穏やかに過ごすことができているか、患者さんへのその様な想いを忘れず、全職員が一丸となって、治療に取り組んでいます。

当院は、廿日市に位置する中規模病院として、JA広島総合病院などからの受け入れも行うなど、周辺地域医療への貢献も行っています。また、土谷総合病院のサテライト病院として、透析患者、循環器疾患患者を中心に引き受けしており、合併症の治療などを連携して行っています。また、消化器内科専門医による胃瘻造設術、上部、下部消化管の内視鏡検査および加療も行っており、地域の病院としての治療も提供しています。

今後急速に進行する少子高齢化社会において、地域における当院の役割が増していくことが予想されます。地域医療への貢献を常に念頭に置き、職員一同がんばっていく所存ですので、よろしくお願いたします。



専門医とリハビリ施設の充実が質を高める腎不全総合医療

阿品土谷病院の透析センターは看護師、看護補助者、臨床工学技士、リハビリ専門療法士、管理栄養士、薬剤師、事務を主体とした医療従事者のチームによって支えられて発展しました。これからも、まさに「ワンチーム」で患者さん本位の、患者さんに満足していただける透析治療を目指しています。

■透析センターの特徴

当院透析センターは、中島土谷クリニック、大町土谷クリニックで外来透析が困難となった患者さんや、土谷総合病院で専門の治療が終了した患者さんが諸種の事情で帰宅困難となった透析患者さんの受け入れと、近くに在住の外来透析患者さんの透析施設です。

当院の特徴の1つは、リハビリ設備を完備しており、リハビリ専門療法士を要している点にあります。透析病院でリハビリが充実している施設はそう多くはありません。しかも常勤として循環器、内視鏡、透析の専門医が勤務しており、非常勤として糖尿病、皮膚科、眼科の専門医も勤務し、腎不全の総合医療が可能です。特に注目すべき点は、セカンドオピニオン外来へ広島大学名誉教授の土肥雪彦先生（介護老人保健施設シエスタ施設長）をお招きすることができ、腎代替療法の選択を含め慢性腎臓病治療の全般にわたるご相談に応じており、腎不全治療の幅と質を高めることができました。

■バスキュラーアクセス管理

血液透析を行うためには透析装置をつないで体内の血液を出し入れする入口が必要です。その入口を患者さんの体に造設したものをバスキュラーアクセス（VA）と言います。以前はシャントと言っていたものが最近ではバスキュラーアクセスという言い方で統一されるようになりました。

VA管理は透析患者さんの生命予後を左右する重要な因子の1つです。そのため合併症が起らないようにチェックし、検査することが非常に重要です。患者さんと接する際はVAをしっかり見て、触って、聞いて異常がないか確認します。しかしそれだけでは見抜けないこともあるので、定期的に超音波診断装置を使用したエコー検査を実施しています。この検査は造影検査のように針を刺したりせず、安全で簡便に非侵襲的に行うことが可能です。現在では年間約400件を超える検査をおこなっています。

当院は穿刺業務にも力を入れており、針を刺すのが難しい患者さんには超音波を用いたエコー下穿刺も導入しています。エコーを使用することで深く走行している血管にも安全にアプローチすることが可能です。これにより再穿刺率は減少し、患者さんのストレス軽減に取り組むことができています。

また、VAトラブル時のバックアップ体制も整えており、当院では経皮的に病変（狭窄・閉塞）へアプローチするPTA治療（経皮的血管形成術）が施行可能です。血管が細くなった箇所へバルーンという風船を入れて血管を拡げる手術です。2017年に143件、2018年134件と年間100件を超える件数をおこなっています。





いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護・介護

看護部では、『いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護・介護』を看護部の理念に掲げ、看取りの看護も含め、最後まで尊厳を持って自分らしく生きられるように、安全で思いやりのある看護介護を目指しています。そこで年に1度、患者さんに満足度調査を行い、患者さんが安心して入院できる環境を作り、満足度を高めることに努めています。また患者さんに対する看護の満足度を上げるには、看護部スタッフも仕事に満足し自信とやりがいをもって働き続けられるよう、教育と職場環境を整備する必要があります。

■教育について

新人教育では、『3年間で一人前になりましょう』をスローガンに、職場に適応できるよう支援します。3年目の先輩がブリーチャター（一番身近な良き相談相手）となり、厚労省の新人看護職員研修ガイドラインに沿って、サポーターと相談しながら評価を行い、段階に応じて知識や技術を習得して行きます。

看護師を含め専門職が成長するためには一定の時間が必要です。院内・外の研修に参加したり、各部署での勉強会を行ったりして、常に新しい知識・技術を取り入れ、自己研鑽することが大切です。

あかね会には、全職員にポイント制度があり、毎年12ポイント（1ポイント/1,000円）が付きますので、このポイントを利用して研修会や学会に参加する事が出来ます。交通費や宿泊費にも使えますし、学会で発表するとポイントが加算されます。

臨床工学技士も看護部に所属し多くの透析学会や医療機器の研修会に参加しています。また、土谷総合病院と協力し、院外研修会の参加や認定看護師を講師にお招きしての専門的な研修会等も行っています。

■環境について

あかね会では、患者さんの状態に合わせて医療機関や介護サービスをご利用いただけます。そして職員もワークライフバランスに合わせて職場を異動する事ができます。産休、育休、院内保育や子育て支援体制も充実しており、安心して働き続けられる環境が整っています。

また、職員間のコミュニケーションを円滑に行うために多職種交流のレクリエーションを行っています。近くの市民体育館を利用したソフトバレー、バドミントン、卓球、男女共に一緒に楽しめるフットサルや自然の景色に癒されるハイキング、バーベキューや宮高探索等も行っており、職員間の交流だけでなくリフレッシュにもなっています。





薬の専門家として患者さんに寄りそう



阿品土谷病院の薬剤部では大きく分けて5つの業務を行っています。調剤、製剤、注射調剤、医薬品情報、薬剤管理指導などです。その内の薬剤管理指導の一環として、近年、特に高齢者で問題視されているポリファーマシーについて、紹介します。

●ポリファーマシーとは？

ポリファーマシーとは多くの薬を服用することにより副作用などの有害事象を起こすことを指します。特に高齢者は、生活習慣病や老化による病気が重なり、病気の治療薬と症状を緩和するための薬の種類が増加し、多剤服用になりやすい特徴があります。

●ポリファーマシーの事例

80歳の女性患者さんは、高血圧に対して降圧薬を服用するが降圧しなかったため、追加で別の降圧薬を服用しました。追加となった降圧薬には咳が出るという副作用

があり、咳が止まらなくなった患者さんはクリニックを受診し、鎮咳薬を処方され服用しました。しかし咳は止まらなかったため、さらに抗菌薬を処方され服用しました。すると抗菌薬による下痢を発症し、脱水症状となり、救急搬送されました。

●ポリファーマシーに対する取り組み

高齢者の増加に伴い、薬物療法の需要はますます高まってきています。複数の疾患をそれぞれ治療するために投与された薬剤同士で薬物相互作用が起りやすく、薬物有害事象が問題となります。

ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス*の低下等の問題につながる状態です。例えば、新たな病状が加わる度に新たな医療機関を受診していると、それぞれ2、3剤の処方でも服用薬が積み重なり、ポリファーマシーとなることがあります。また、新たな病状を薬剤で手当てしていくと上記の事例のように、薬物有害事象に薬剤で対処し続ける悪循環に陥る可能性もあります。これらによるポリファーマシーは、薬剤師が薬剤の処方状況全体を把握することで解消に向かうことが可能となります。

※服薬アドヒアランスとは

患者が治療方針の決定に賛同し、積極的に治療を受けること。医師や薬剤師から指示された治療法を、患者が守って実行すること。

ポリファーマシーは、単純に医薬品を減らせば解決できるという問題ではなく、処方を行う医師、患者さんと接する機会の多い看護師、薬の専門家としての薬剤師などの医療スタッフが、それぞれの立場から得られた患者さんの情報を共有し、医薬品の適正使用を心がけていくことが必要です。患者さん自身においても、お薬手帳やかかりつけ薬剤師制度を活用し、使用している医薬品について積極的に医療スタッフに相談することがポリファーマシーの解決につながります。



患者さんが安心してサービスを 受けられるために



Topics
地域医療連携室

地域医療連携室では、患者さんが安心して、切れ目のない医療・看護・介護サービスを受けることができるよう、様々な支援や調整をしています。

●入院相談

地域医療連携室では通院透析が困難となった方や、慢性期の継続治療が必要な方、急性期治療後のリハビリ、終末期の看取り、レスパイト入院※などのご相談の対応をしています。2019年度からは、腹膜透析（CAPD・APD）の受け入れも行っており、そちらのご相談にも対応しております。

入院前には、患者さんやご家族と面談を行い、入院生活に関する説明を行っています。心配事や困り事があれば、解決方法を一緒に考え、安心して療養して頂けるよう努めています。また、地域の医療機関や介護事業所などと連携し、スムーズに対応できるよう心掛けています。

※レスパイト入院とは

難病やがんなどで、在宅医療を受けながら療養されている方が対象で、介護者の負担軽減、冠婚葬祭、家庭行事、旅行などにより、一時的に在宅介護が困難となる場合の入院



●退院相談

病気や治療に伴い、生活状況が変化したり、身体機能が低下したりすることがあります。そのような時、ご自宅での暮らしの見直しや、どこでどのような療養生活を送りたいかなどを患者さんやご家族に伺いながら、より良い生活ができるように支援しています。また、地域の医療機関や介護事業所などと連携し、退院後に使用する制度やサービスの調整などについて、退院前カンファレンスを行い、患者さんやご家族が安心して退院後の生活を送ることができるようサポートします。

●医療福祉相談

医療ソーシャルワーカーや看護師が、通院・入院または療養生活に伴って生じる様々な心配ごとや問題について、患者さんやご家族と一緒に考えながら解決へのお手伝いをしています。

～たとえば、こんなときにご相談ください～

介護保険ってなに？

家での介護方法が分らない、不安がある

医療費の支払いや生活が心配

高齢者の自宅以外での生活場所を探したい

お医者さんに聞きたいことがあるのだけど…

その他、誰に聞いてよいか分からないこと、どこに相談してよいのか迷うときなど、まずはお気軽にご相談ください。



地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

かわごえ循環器内科

診療科目／循環器内科・心臓内科・内科

かわごえ たくじ
院長 河越卓司

平成26年4月に開院して5年になりますが、循環器を中心に診療を行っております。
土谷総合病院には昭和61年から2年間研修医としてお世話になり、当時の循環器内科部長の木下禎彦先生や吉田修先生に循環器のいろはから教えて頂きました。また現在は開放病床利用等の病診連携のお手伝いをさせて頂いております。そういった繋がりから、患者様の紹介がしやすく、急患や精査が必要な患者様をお願いしておりますが、迅速な対応をして頂き大変感謝しております。また定期的に病診連携の講演会を催して頂き、そこで土谷総合病院の先生方から最先端の情報を教えて頂き、自分の医療レベルの向上の一助とさせて頂いております。



診療時間／9:00~13:00, 15:00~18:00(水曜日・土曜日は午前のみ)
休診日／日曜日、祝日

住所／〒730-0014 広島市中区上鞆町3-11上鞆町パークマンション1F
TEL／082-222-7776 FAX／082-222-7277

医療法人あかね会

■土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
TEL:082-243-9191(代)



■在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 TEL:082-544-2789 西広島 TEL:082-507-0855
大町 TEL:082-831-6651 出汐 TEL:082-250-1577
佐伯 TEL:082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光南 TEL:082-545-0311 西広島 TEL:082-507-0877
大町 TEL:082-831-6654 出汐 TEL:082-250-5080
佐伯 TEL:082-925-0770 戸坂 TEL:082-502-5205
可部 TEL:082-819-2250 矢野 TEL:082-820-4825
阿品 TEL:0829-20-3585

■阿品土谷病院

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-5050(代)

■大町土谷クリニック

〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
TEL:082-877-5588(代)

■中島土谷クリニック

〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
TEL:082-542-7272(代)

■介護老人保健施設シエスタ

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-2080(代)

土谷居宅介護支援事業所

光南 TEL:082-504-3202 西広島 TEL:082-507-0866
大町 TEL:082-831-6653 出汐 TEL:082-250-3730
佐伯 TEL:082-925-1550 戸坂 TEL:082-502-5215
矢野 TEL:082-820-4835 阿品 TEL:0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 TEL:082-544-2885 大町 TEL:082-831-6600

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

土谷総合病院

検索



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4番11号
TEL:082-245-9274
http://www.tsuchiya-hp.jp

2019年12月発行